

公開実用平成 2-86359

4

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

平2-86359

⑬ Int. Cl.

OA 47 C 7/72
7/38
H 04 R 1/00
1/02

識別記号

3 2 8 Z
1 0 2 B

庁内整理番号

8608-3B
7309-3B
8946-5D
8946-5D

⑭ 公開 平成2年(1990)7月9日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 頁)

⑮ 考案の名称 自動車用ヘッドレスト

⑯ 実 願 昭63-166953

⑰ 出 願 昭63(1988)12月23日

⑱ 考 案 者 西 本 真 司 広島県安芸郡府中町新地1番14号 デルタ工業株式会社内
⑲ 出 願 人 デルタ工業株式会社 広島県安芸郡府中町新地1番14号
⑳ 代 理 人 弁理士 青 山 篠 外1名

Y 113

Best Available Copy



明 細 書

1. 考案の名称

自動車用ヘッドレスト

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 本体と、前方に突出可能に設けた両側端部とから形成し、両側端部にスピーカーを埋設するとともに、本体の適宜位置に可動アームを設けて該可動アームの先端にマイクを取り付け、前記スピーカー及びマイクを複数の用途に切換えて選択可能に設けたことを特徴とする自動車用ヘッドレスト。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

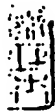
本考案は、マイク及びスピーカーを備えた自動車用ヘッドレストに関するものである。

(従来技術)

従来、自動車内で使用する無線、ステレオ、カラオケ、電話等のマイク、スピーカーはそれぞれ別個独立に設けられている。

(考案が解決しようとする課題)

700



しかしながら、運転中にこれらのマイクを使用することは片手運転となり極めて危険である。

そこで、マイク付のヘッドホン等を利用することも考えられるが、運転中の着脱動作はほとんど不可能であるから、車を一時停止させて行わなければならない、煩わしい。また、外部の音が遮断されるので好ましくない。

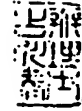
本考案は斯かる問題点に鑑みてなされたもので、マイク及びスピーカーを備えた自動車用ヘッドレストを提供することを目的とする。

(課題を解決するための手段)

前記目的を達成するため、本考案は、本体と、前方に突出可能に設けた両側端部とから形成し、両側端部にスピーカーを埋設するとともに、本体の適宜位置に可動アームを設けて該可動アームの先端にマイクを取り付け、前記スピーカー及びマイクを複数の用途に切換えて選択可能に設けたものである。

(実施例)

次に、本考案の一実施例を添付図面に従って説



明する。

第1図において、1は本考案に係る自動車用ヘッドレストを示し、シートバック2の上端に埋設した2個のボールガイド3,3にそのボール4,4を差し込んで取り付けられている。このヘッドレスト1は、本体5と両側端部6,6とからなっている。

本体1の内部には、第3図に示すように、フレーム7に支軸8が左右方向に回転自在に取り付けられている。この支軸8の両端は、第2図に示すように、本体5の表皮外面から突出して、断面矩形の係合突起9と周溝10が形成されている。また、フレーム7には、第3図に示すように、管状のボール4,4が取り付けられ、左側のボール4にはアーム支持フレーム11が取り付けられている。このアーム支持フレーム11には先端にマイク12を取り付けたフレキシブルに屈曲するアーム13が表皮外面から外側に延設されている。

そして、右側のボール4の下端に設けた電極14から支軸8の両端突出部の近傍に至るまで、リ



ード線 15, 15 が配線されている。また、左側のボール 4 の下端に設けた電極 14 からアーム 13 内を通過してマイク 12 に至るまで、リード線 16 が配設されている。各ボール 4, 4 の電極 14, 14 はシートバック 2 のボールガイド 3, 3 に設けた図示しない電極と導通するようになっている。また、ボールガイド 3, 3 の電極は、図示しないインストルメントパネルへ配線されている。

一方、両側端部 6, 6 のフレーム 17 には、第 2 図に示すように、上端寄りに前記支軸 8 の係合突起 9 が嵌合する矩形の係合穴 18 が形成されている。そして、該係合穴 18 の周囲には支軸 8 が嵌合するスリーブ 19 が固着されている。このスリーブ 19 には外周 2 箇所にスリット 20, 20 が形成されている。

また、両側端部 6, 6 の下部にはスピーカー 21, 21 が埋設され、そのコーン部は互いに対向するように表皮外面に露出している。そして、このスピーカー 21, 21 からスリーブ 19, 19 の回りに設けた引出し穴 22 に至るまで、リード線



2 3 が配設されている。

この両側端部 6, 6 は、本体 5 の支軸 8 に嵌合したスリーブ 1 9 のスリット 2 0 から支軸 8 の周溝 1 0 に C 形止め輪 2 4 を嵌着して、リード線 1 5 とリード線 2 3 とを接続することにより、本体 5 に対して回動自在に取り付けられている。

第 4 図はスピーカー 2 1, 2 1 とマイク 1 2 の概略回路を示し、3 1 は電話器本体、3 2 はステレオ及びカラオケ装置、3 3 は無線機本体、3 4 はアンプ、3 5, 3 6, 3 7 は選択スイッチであり、いずれも図示しないインストルメントパネル近傍に設けられている。

アンプ 3 4 は、選択スイッチ 3 5, 3 6, 3 7 により電話、ステレオ、又は無線が選択されると、スピーカー 2 1, 2 1 及びマイク 1 2 の配線を当該選択されたものに切り換えるとともに、音声電流を適宜増幅する回路構成となっている。また、ステレオ又は無線の選択中に電話の呼び出しがあれば、その呼出音がステレオ又は無線の音声電流に合成され、スピーカー 2 1, 2 1 から確認できる

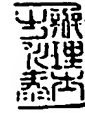


ようになっている。

以上の構成からなる自動車用ヘッドレストにおいて、スピーカー 21, 21 を使用するには、左右いずれかの側端部 6, 6 の下端を前方に引けばよい。これにより、第 1 図に示すように、両側端部 6, 6 の下部が前方に突出して左右のスピーカー 21, 21 が両耳の側方に位置する。スピーカー 21, 21 を使用しないときは、両側端部 6, 6 のいずれかを後方に押し戻せばよい。

また、マイク 12 を使用するには、第 3 図に示す状態からアーム 13 を引き下ろしてマイク 12 を口元に位置させればよく、使用しないときはアーム 13 を押し上げればよい。

このように、スピーカー 21, 21 及びマイク 12 を使用可能な状態にしておき、選択スイッチ 35 を押すと電話に切り換えられ、選択スイッチ 36 を押すとステレオ及びカラオケ装置の使用が可能となり、また選択スイッチ 37 を押すと無線に切り換えられる。ステレオの使用中に電話がかかれば、その受信音がスピーカー 21, 21 から



聞こえるので、選択スイッチ 35 を押して電話に切り換えればよい。

(考案の効果)

以上の説明から明らかなように、本考案に係るヘッドレストは、前方に突出可能な両側端部にスピーカーが埋設してあり、本体に設けた可動アームにマイクが取り付けられているので、運転中であっても、いつでも容易に使用可能な状態にすることができ、また元の状態に戻すことができるので、安全である。

また、スピーカー及びマイクは複数の用途に切り換え可能であるので、各用途個別のマイクを使用する必要がなく簡便である等の効果を有している。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る自動車用ヘッドレストの斜視図、第2図はヘッドレストの両側端部の本体との接続部の分解斜視図、第3図はヘッドレストの断面図、第4図はマイクとスピーカーの概略回路図である。

1…ヘッドレスト、 6…両側端部、



1 2 …マイク、 1 3 …アーム、

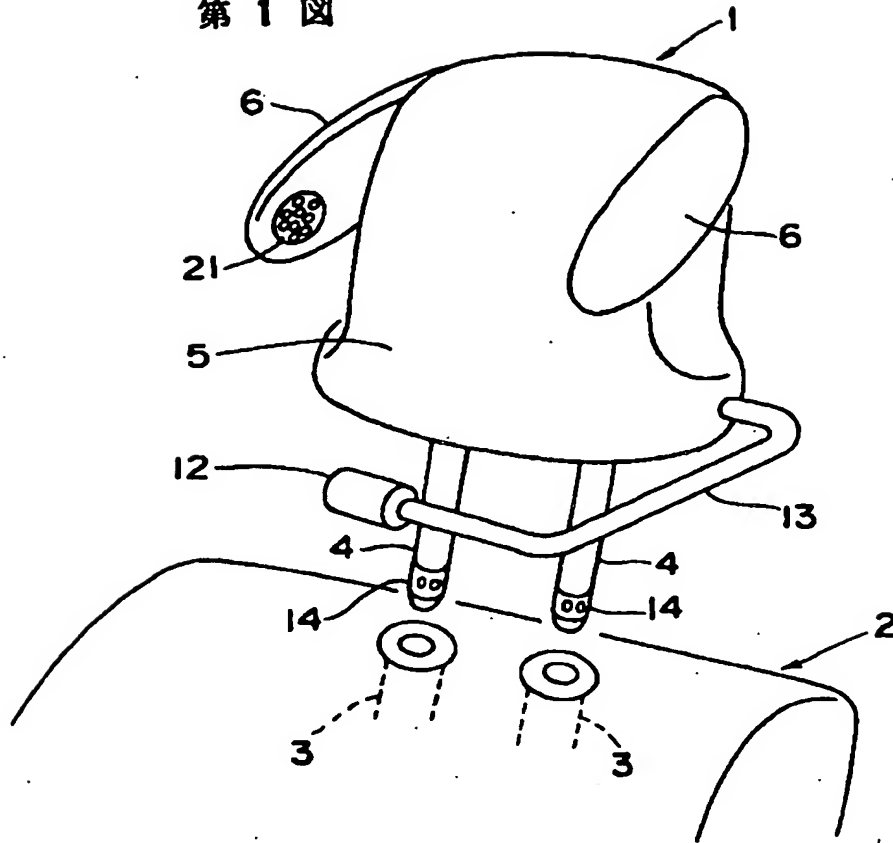
2 1 …スピーカー、

3 5 , 3 6 , 3 7 …選択スイッチ。

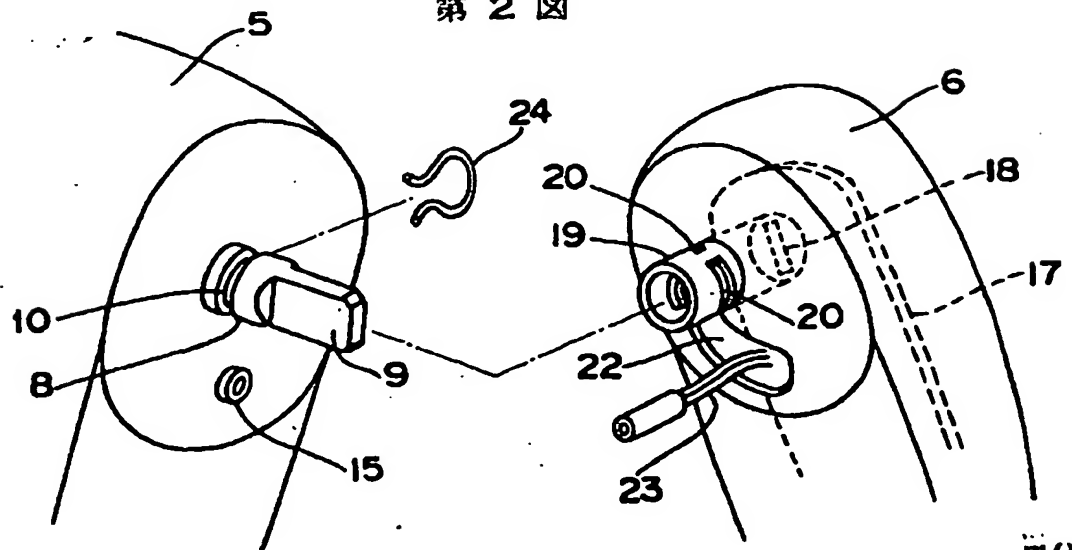
実用新案登録出願人 デルタ工業株式会社

代 理 人 弁理士 青山 葆 ほか 1 名

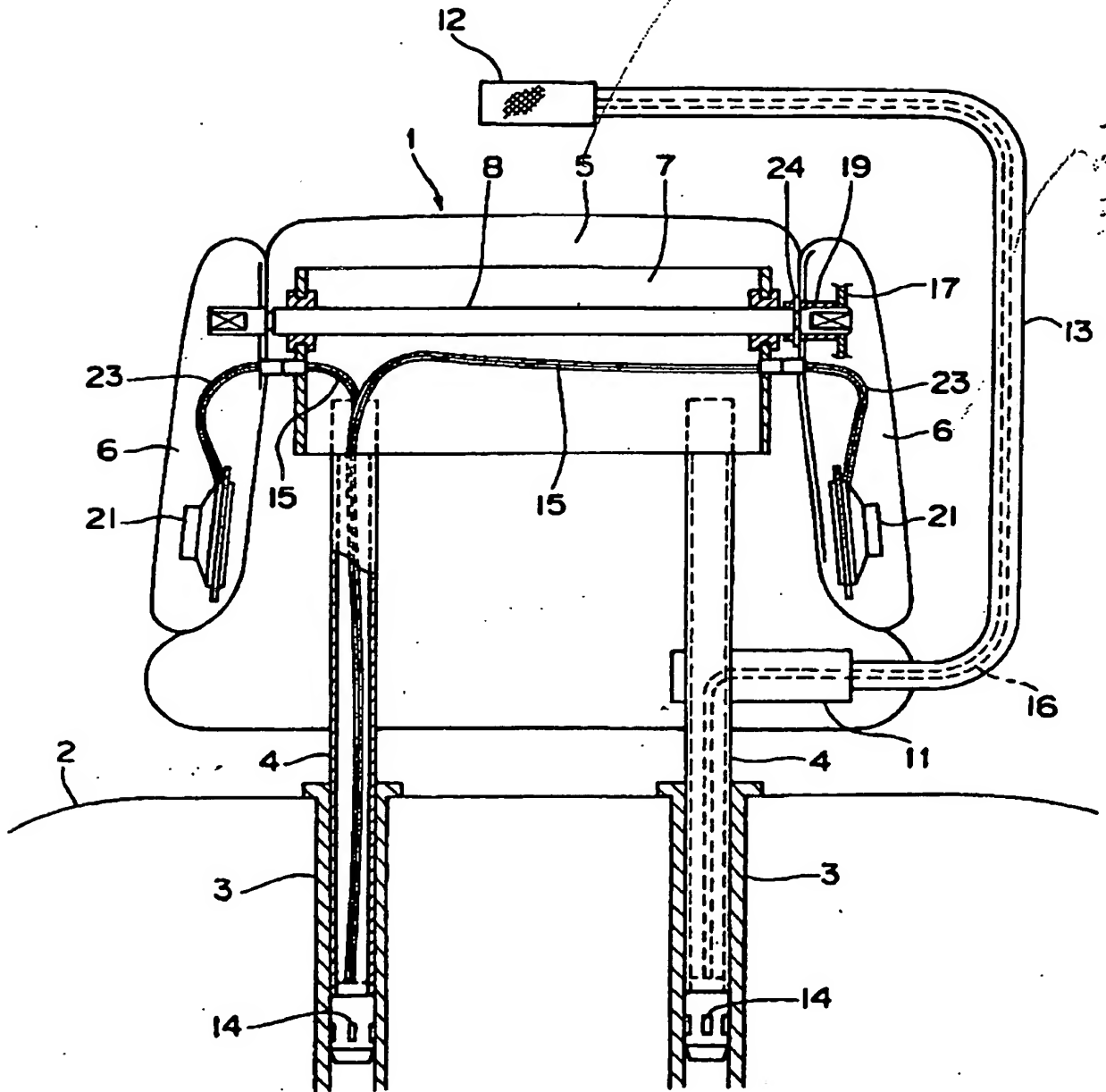
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図

